

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 長沼町

記入者名： 長沼町政策推進課 平林 毅一郎

上位関連計画にみる地域の将来

- パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 人口目標 現在：11,076人(2015年)、将来：8,300人(2040年)、6,300人(2060年)（第2期長沼町人口ビジョン(案)）
- 社会移動 現状：▲43人(2018年)→目標：プラスに転化(2024年)（第2期長沼町まち・ひと・しごと総合戦略(案)）
- 合計特殊出生率 現状：1.43(2012年)→目標：1.65(2024年)（第2期長沼町まち・ひと・しごと総合戦略(案)）

②具体的なアクション

タンチョウも住めるまちづくりの各種取組の担い手として**サポーター制度の設立**を検討する。

呼び戻す会を主体とした見守り活動や指導者付き観察会の開催検討など、**タンチョウ定着促進のための普及啓発**を行う。

企業や地銀の巻き込みを通じて、舞鶴遊水地や近隣の遊休施設を活用した**取組・活動の拠点整備**を検討する。

意欲のある農家と協力して、**環境に配慮した農業を検討**するとともに、**ブランド価値の高い農産物の売り込み**を行う。

町内の商店等と協力して、タンチョウをシンボルとした**商品を開発・販売**する。

町内学校やグリーン・ツーリズム運営協議会と協力して**町内外の子どもに向けた環境学習**の機会を作る。

①目指すべき姿

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ ○タンチョウの繁殖・定着
舞鶴遊水地を拠点として長沼町内でタンチョウが繁殖できる環境を構築し、タンチョウの定着を目指す。

○地域経済の活性化
タンチョウをシンボルとして、農業や観光などの産業のブランド価値を高め、地域経済に還元される仕組みを構築する。

○対流型地域形成
環境学習等により子ども達も含め地域ぐるみでタンチョウを見守る町をつくる。

→ 千歳川流域の近隣他市町との連携を深め、流域全体での生態系ネットワーク構築を目指す。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	動植物の状況	タンチョウの営巣・繁殖	0	1	1	つがい
	農地の状況	タンチョウ農業(仮)の検討	0	1	0	要件
経済	商工・観光	タンチョウ関連商品数	8	15	13	件
	商工・観光	年間舞鶴遊水地利用者数	392	450	280	人
	町政	タンチョウも住めるまちづくりへの寄附額	0	2,500	2,500	千円
社会	取組のPR・普及啓発	ロゴマーク承認数	9	20	15	件
	取組のPR・普及啓発	授業を受けた児童・生徒の数	388	500	510	人
	取組のPR・普及啓発	年間イベント開催・出展数	10	12	3	回
	取組への住民参加	サポーター制度の設立	0	1	0	制度
	取組への住民参加	長沼タンチョウ見守り隊参加者数	18	20	30	人

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	動植物の状況	タンチョウの営巣・繁殖	0	1	2030年度	2	つがい
	農地の状況	タンチョウ農業(仮)取組面積	0		2050年度	50	ha
経済	商工・観光	タンチョウ関連商品数	8	15	2030年度	100	件
	商工・観光	年間舞鶴遊水地利用者数	392	450	2030年度	1,000	人
	商工・観光	観光入込数	72		2024年度	100	万人
	農業	農畜産物生産販売額	7,058,721	7,934,840	2021年度	7,987,740	万円
	町政	タンチョウも住めるまちづくりへの寄附額	0	2,500	2030年度	100,000	千円
社会	取組のPR・普及啓発	ロゴマーク承認数	9	20	2030年度	100	件
	取組のPR・普及啓発	授業を受けた児童・生徒の数	388	500	2030年度	1,000	人
	取組への住民参加	サポーター数	0	15	2030年度	100	人
	取組への住民参加	長沼タンチョウ見守り隊参加者数	18	20	2030年度	50	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

タンチョウも住めるまちづくりは、環境と経済・社会が相互に好影響を及ぼし地域が形成されることを目指しており、（環境面）タンチョウの繁殖・定着、（経済・社会面）タンチョウによる地域経済活性化・社会形成が目標となります。

しかし、現在、タンチョウは必ずしも地元の人々に受け入れられているわけではありません。農業者にとっては、食害や観光客が農作業に悪影響をもたらすのではないかなど懸念があります。

そこで、経済・社会面の短期目標は環境学習の促進、ロゴマークの活用、タンチョウ関連商品の販売など、タンチョウへの愛着醸成のための取組に関わる事項を設定しました。

これらを通じて「長沼町＝タンチョウも住めるまち」のイメージを形成し、長期的には農業や観光など町の産業にも良い影響をもたらすことを目指します。

また、環境面でも、タンチョウへの愛着が醸成され、地域ぐるみでタンチョウを見守る雰囲気が形作られていくことで、タンチョウの定着を促進することができます。

その他の環境面の目標としては、タンチョウにも優しい農業を町内で確立すべく、短期的には農法の検討、長期的には町内での農法の広がりを目指していきます。